

「23 感性教育講座」の内容

毎回供覧する事例の映像は、乳幼児期早期に発達障害が疑われ、MIU で母子関係の様相を観察する目的で行われた SSP（新奇場面法、図1）を録画したものです。

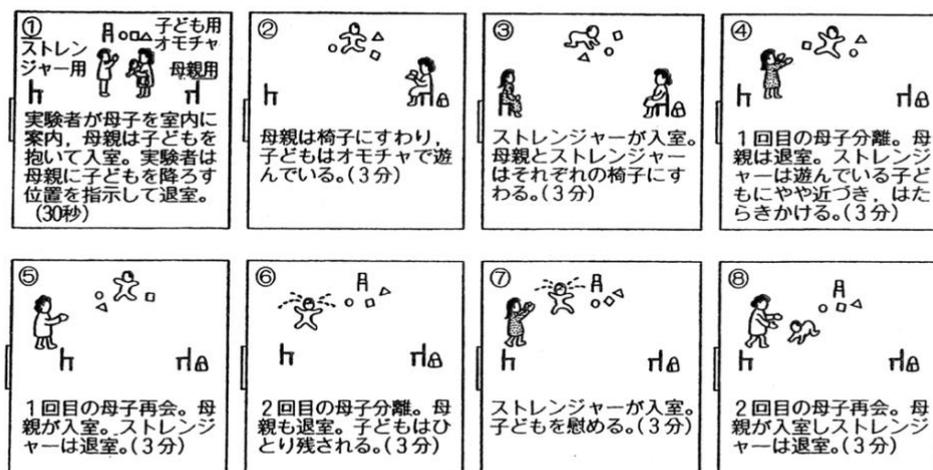


図1：新奇場面法

通常 SSP はアタッチメント・パターン評価のために実施されてきたものです。しかし、アタッチメント・パターンを評価しようとするとしても子どもの行動特徴に注意関心が引き寄せられてしまい、母子双方のこころの動きを感じ取ることが困難になってしまいがちです。臨床家に求められるのは、SSP で展開する母子双方のこころ模様を感じ取り、それを治療や支援に生かすことです。

具体的な流れは以下の通りです。括弧内の所要時間はおよその目安です。

1) 講師の挨拶一本講座を始めるにあたってー (5分)

本講座のねらいを解説します (資料を参照のこと)。

2) 全員で録画映像を視聴する (20分)

そこでまずは皆さんに毎回異なった事例の録画映像をご覧ください。

3) 各自感想をまとめる (5分)

その際、この資料に印刷されている「観察記録」を使用してください。

4) グループに分かれて発表し合う (30分)

5人前後のグループに分けていただきます。各グループの進行役は当日自己紹介ののちに各グループで決めていただきたいと思います。そこで各自が映像を見た感想を互いに発表し合います。その際、皆さんには以下の諸点に留意してください。

①各自感想を発表する際、自分の感じたことを率直に述べるのが大切であって、けっして正しい答えが要求されているわけではありません。

②したがって、聴く側も発表者の発言内容をしっかりと受け止め、分かりにくいところがあれば、その点を尋ね合うことによって、発表者の意図するところをよりよく理解できるように努めてください。

③全員の発表を聴いた後、互いの感想で異なったところを確認し合い、その相違がなぜ生じたのかを比較しながら考えてください。

④以上の作業を通して、対象である母子双方のこころの動きをさらに深く理解する可能性を発見し、確かめ合ってください。

5) グループから全体に戻り、各グループのまとめを進行役が発表する(20分)

グループで各自感想を発表し終えたら、グループから全体に戻る。その後、進行役が各グループのまとめを発表する。短時間ですので、大まかな印象だけで結構です。

6) 講師の解説(30分)

講師が事例の解説を行います。

7) 質疑応答と総括(10分)

以上の流れ(2時間)で進行します。

この試みでもっとも大切なことは、客観的で正しい観察方法があるわけではなく、何をいかに観察するかという作業は、自分自身の対象への関心のあり方や価値観という自己の内面の特徴によって大きく左右されることを体感することです。このことによって自己理解が深まり、その結果として他者を観察し理解するための感性がより深まることが期待されるからです。

録画映像の内容は、乳幼児の母子交流の場面ですが、その内実は話しことばのほとんどないコミュニケーションです。それを観察して理解するプロセスは、観察者自身の感性に委ねられる部分が大きく、そこで体験される対人理解は自分の内面で感じたことを通した理解、つまりは自己理解という側面が強くなります。私が目標するのは、皆さんが各々自分で感じたことを率直に語り合い、そこで生じた相互の共通点あるいは相違点がなぜ生まれたのか、その背景要因を語り合う中で、他者理解がいかに自己理解と深く繋がっているかを体感することにあります。

よってこの試みは、皆さん自身が他者理解を試みる中で、いかに自己理解が関係しているかということに気づき、それを通して自己発見を体感することだということもできましょう。

注意事項：

1) 万が一主催者側の通信状況悪化のために、講座の進行が不可能になった場合には、改めて他の日時を設定の上、補講を開催します。ただし、受講者側の通信状況の悪化の場合には対応できません。

2) 録音、録画は厳禁です。

3) 映像内容については、匿名性を十分にご配慮の上、ご参加してください。

